

苫小牧市立清水小学校学校便り

清水の子



『未来を創造する
清水の子の育成』

◇学びを広げる子
◇思いやりあふれる子
◇たくましさみなぎる子

TEL 33-7285

Eメール simizu-es1@hokkaido.school.ed.jp

第 3 号 平成 2 9 年 6 月 2 3 日 発行



気配り 心遣い 豊かな感性

校長 一谷 浩之

今年の運動会も皆様のおかげで所期の目標を達成することができました。本当にありがとうございました。今回は全く手前味噌の話を書かせていただきます。ご容赦下さい。

我々教職員はグラウンドに移動する時、職員だけの通用口を利用します。細い通路の突き当たりの小さな扉です。通用口を出るとすぐに外物置があり運動会の用具を取り出してそのままグラウンドに行けるのです。教職員はいつも大急ぎで次の時間の準備に走りますので、通用口には雑然と教職員の上靴が置かれているのが常でした。あまり人目にはつかない場所でしたので、私自身も何の疑問を持たずに日々出入りをしていました。

それに気付いたのは、運動会の練習も佳境に入ってきた頃でした。その日は全校練習でしたので通用口は教職員の靴で埋め尽くされていました。ただいつもと違うのは上靴が雑然としていなかったということです。狭い通路の壁際に踵を壁につけ全て出船の状態を整然と上靴が並べられていたのです。それを見た時、私は頭を何かで打たれたようなショックを感じました。なぜ私は今まで靴をそろえるという基本的な整理整頓に気付かなかったのだろう。忙しいから…人目につかないから…今までずっとそうだったから…。頭の中は考えられる言い訳がぐるり巡っていました。

次の日もその次の日も通用口の上靴は揃えられていました。誰からともなく靴を揃えるという行為を自分から進んで行っているのです。誰からともなく…。

私は今までの乱雑な行為、いや考え方、感性を恥じました。同時に清水小学校の教職員に今まで以上の絶対の信頼を置き尊敬の心を持つことができました。誰かに言われたわけではなく、そのことを話し合ったわけでもなく、示し合わせたわけでもなく、良いと思った行動をさり気なく全員が行っている。こうやって清水小学校の職員室文化は築かれてきたのでしょうか。気配りとか心遣いを越えた豊かな感性を感じます。

子ども達を育てるとい仕事は大変な仕事です。本校の教職員は全国で報道されているのと同様、超多忙な勤務をしています。その中で忙殺されずに豊かな感性でいてくれることは、少なからずや子ども達の育ちに影響していることだと思います。

我々は日々努力を重ねているつもりですが、まだまだ至らぬところはたくさんあります。よりよい教育を目指して研鑽して参りますのでご協力よろしく願いいたします。

